

地域は、地域で孤立しがちな人とどうつながるか

提言

知ることからはじまる 地域のつながりづくり

登壇者

【進行役】	高橋 良太氏	(社福) 全国社会福祉協議会地域福祉部長
	伊是名 夏子氏	コラムニスト
	奥田 知志氏	(認定特非) 抱樸理事長
	勝部 麗子氏	(社福) 豊中市社会福祉協議会福祉推進室長
	玄 秀盛氏	(公社) 日本駆け込み寺代表

■ 寄せられた声から

- 「引きこもりの人を外に出す」視点をよく耳にしますが、果たしてその人が出たい社会になっているのか？ 息苦しさがある社会のままではないか？ 出ることによって傷つけられることはないのか？ 受け入れる社会の大切さをうかがったことはとても印象に残っています。
- 伊是名さんの「障がい者に助けてもらいたいと思いますか？」がとても印象的です。障がい者はいつも助けられる立場ではないという気付きになりました。
- 玄さんの「地域社会が加害者になっていないか？ 寛容さを持った社会づくり」という発言が心に刺さりました。
- 勝部さんの受援してくれる人がいるから成り立っていること。支援者も自分の弱みを話せたり、助けを求められるようにとおっしゃったことが心に改めて響きました。皆さんのお話は学びが深まりました。
- 奥田さんから日本の社会的孤立の状況について説明がありましたが、地域共生社会の実現に向けて、家族以外の人（地域の人）との交流を若者も巻き込みながらいかに意図的につくっていくかを社協として早急に考えないといけないと認識しました。

議事要旨 高橋 良太氏

この分科会では、障害者や引きこもりの状態にある人、ホームレス、刑務所出所者など、地域で孤立したり、排除されてしまう人たちについて、4人のパネリストと話し合いました。

ご自身が骨の弱い障害「骨形成不全症」で電動車いすを使用しているコラムニストの伊是名夏子さん。「障害がある人は施設や病院で過ごしている」「障害者は家族が介護すべき」、そうした先入観や偏見のなか、「障害があってもなくても、住みたいところに住み、好きなものを食べ、お出かけを楽しむ」という権利さえ守られていないといいます。JRで車いす乗車を拒否されたことを報告したブログには、誹謗中傷やヘイト、デマが飛び交いました。様々な人が地域にいるのだから、それぞれに合った選択肢（合理的配慮）を用意してほしい。優しさや、思いやりが大切なのは当然だが、当事者にとっては権利も大切だと訴えました。

「たった一人のあなたを救いたい」。新宿歌舞伎町でさまざまな過去を背負って集まる相談者に日々対応する日本駆け込み寺代表の玄秀盛さん。相談を寄せてくる刑務所出所者が、「迷惑が掛かるから」と帰りたい故郷に帰れない心情を語ってくれました。見知らぬ地で暮らしていても、職場で触れられたくない過去の説明を求められ、次第に孤立していく刑余者。「地域社会が加害者になっていないか?」「刑余者を地域から切り離し、排除することが再犯のハードルを下げているのではないか?」、個人では支えることが困難な刑余者を、多様性を持った地域が面で支えることの可能性に言及する一方で、同じ地域があわせ持つ再犯を生み出す土壌について厳しくご指摘いただきました。

豊中市社協でCSWとして長年制度の狭間に向き合ってきた勝部麗子さん。コロナ禍で減収した人の命を特例貸付でつないできました。そして、その中でシングルマザーや仕送りのなくなった大学生、外国人、職と住まい

を失った人、ヤングケアラーなど、さまざまな課題を抱える人たちと出会ってきました。それらの出会いは地域の中で自らSOSの発信ができない人たちに気づき、知らせてくれた地域の人たちのおかげ。そうした地域の人たちと今も新しい事業や活動をつくりながら、新たなつながりづくりを模索しています。「ひとりぼっちをつくらない」。そこには障害がある人も引きこもりの人も支援に参加しています。

30年以上前、路上に生きる人たちと出会うため、おにぎりや豚汁を持って夜の街を回り始めたという抱樸理事長の奥田知志さん。経済的困窮をハウスレスの状態、社会的孤立をホームレスの状態として区別しています。貧困、格差、孤立等社会的なつながりの希薄化が広がる中で、さまざまな生きづらさを抱える人たちが増えていきます。そうした人たちには、「問題解決型の支援」とともに、つながることを目的とした「伴走型支援」が大切だと訴えます。そして今、抱樸では「家族機能の社会化」に挑戦し始めました。抱樸と地域で何気ない日常を支える。赤の他人が葬儀を出し合う社会を目指し動き出しています。

人と人、人と社会とがつながり、一人ひとりがいきがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティ、地域や社会を創ることは容易なことではありません。地域には異質なものを排除しようとする冷たい側面があるからです。しかし私たちは、そして地域は、地域共生社会の実現に向けて、「断らない」「逃げない」「寄り添い続ける」ことをあきらめたいけません。私たちが、そして地域が社会的排除や孤立に向き合い、つながり続けるために、難しくとも、これまで知らなかった、あるいは知ろうとしなかった人たちと、出会い、知り合うことから始めてみてはいかがでしょうか。

アンケートの結果 参加者概数：719名（オンライン：705名、会場：14名） 回答者数：233名

